

製品名: ERCC1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10577**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	ERCC1
別名	ERCC1; DNA excision repair protein ERCC-1
遺伝子 ID	2067.0
SwissProt ID	P07992
免疫原	抗血清はヒト ERCC1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

背景

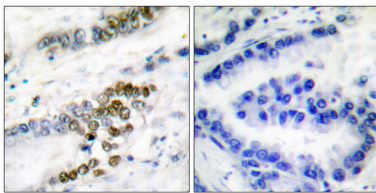
この遺伝子産物はヌクレオチド除去修復経路において機能し、紫外線によって誘発される DNA 損傷やシスプラチンなどの求電子化合物によって形成される DNA 損傷の修復に必須です。コードされているタンパク質は XPF エンドヌクレアーゼ (ERCC4 と呼ばれ

る)とヘテロ二量体を形成し、このヘテロ二量体エンドヌクレアーゼは DNA 損傷の切除過程において 5'切断を触媒します。このヘテロ二量体エンドヌクレアーゼは、組換え DNA 修復および鎖間架橋の修復にも関与しています。この遺伝子の変異は脳眼顔面骨格症候群を引き起こし、この遺伝子の発現を変化させる遺伝子多型は発癌に関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。この遺伝子の最後のエクソンは、CD3e 分子であるイプシロン関連タンパク質と重複しています。疾患: ERCC1 の欠陥は、脳眼顔面骨格症候群 4 型 (COFS4) [MIM:610758]の原因です。COFS は、出生前発症の常染色体劣性遺伝性変性疾患で、脳、眼、脊髄に影響を及ぼす。出生後には、脳萎縮、脳梁形成不全、筋緊張低下、白内障、小角膜、視神経萎縮、進行性関節拘縮、成長障害を引き起こす。顔面異形症は恒常的な特徴である。頭蓋骨、眼、四肢、心臓、腎臓にも異常がみられる。機能:DNA 修復時に 5'切断を担う構造特異的 DNA 修復エンドヌクレアーゼ。類似性:ERCC1/RAD10/SWI10 ファミリーに属する。サブユニット:ERCC1 と XPF/ERRC4 からなるヘテロ二量体。

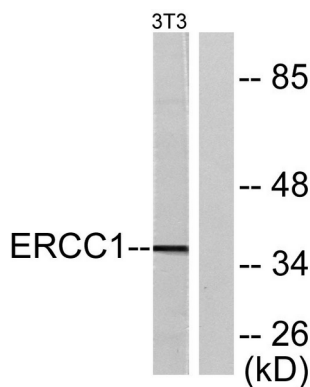
研究分野

ヌクレオチド除去修復

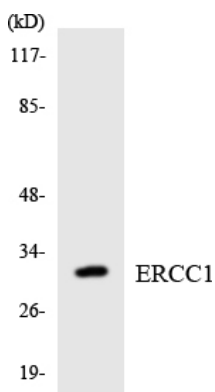
画像データ



ERCC1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



ERCC1 抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ERCC1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

ERCC1 ポリクローナル抗体を使用した 3T3 細胞のウエスタン ブロット解析。

